

通信	組合
同 舟	
第 8 号 12月号	
府中稲城不動産 取引業組合 編輯兼發行人 高野 豊次	

定例十二月理事会開催

一と き 十二月五日午後四時より
二と ころ ダイワ不動産
出席者 山村、辻、石黒、榎時、高野、
内山、稻城、各理事

要領次の通り

A 報告事項

- (1) 幹旋調書に関する件
連合会は依然幹旋調書を提出するか否か未定の旨山村理事長より報告あり。
- (2) 不動産手帳の件
不動産手帳は組合として百部注文済みでこれは各店主に一部を無償配布、他は概ね希望者に対し一部二百三十円程度で販売の見込の旨山村理事長より報告あり
- (3) 新聞広告に関する件
住宅新報外二社より年賀広告掲出方申越しあり、恒例の通り掲出する旨山村理事長より報告あり。

B 協議事項

- (1) 新年宴会の件
山村理事長より新年宴会開催の可否に關し各理事に諮りたるところ、一同異議なく開催を希望
期日は一月二十日午後三時より定時
総会を兼ね料亭大國にて会費二千元、その他招待先等協議
- (2) 幹旋調書提出の件
一同協議したるも意見区々にしてま
とまらずデリーケートなものであるをも
つて連合会の動向に同調することに決
定。
- (3) 取引業協会に関する件
山村理事長より取引業協会に關する最近の動き等説明あり、協議の結果当組合としては三多摩を一部とする案に賛成し若し同案が容れられざる場合は府中稲城を以て一部とするに意見一致。

計 報

組合員立川不動産代表 立川里吉氏 は予て病床のところ
薬石効なく十二月五日死去せられました。洵に哀惜に堪えず茲
に謹しみて弔意を表します

連 載

白 川 郷

五



T 生

白川郷は日本一不便な所であるが、この白川郷の内でも、もう一つ不便であり孤独でさ
びしいところがある。

それは岐阜県と富山県の県境を流れる境川の最上流でくわしくいえば、加賀の白山の雪
どけ水を直接汲みとることが出来る辺境の地、岐阜県は白川村加須良部落、一方富山県は、
となみ村桂部落である。そしてこの両部落は僅か巾一〇米位の境川をへだて、双方とも丁
度五戸づつ合計十戸の合掌庵があるが、部落名は桂と加須良であるので、語呂の読みとり
上、間違ひ易く、従つて一般には越中桂、飛弾加須良とよんでいる。
さてこの両部落は富山県側からは僅かに踏み分け道程度の通路があるが、岐阜県側から
は直接道路がない。従つて岐阜県の加須良部落へ行くには恰も三角の二辺を遠廻りせね
ばならない仕事である。
ここで偶々役番で農業土木の仕事があり、この加須良部落にも道路をつけるべく計画す

ることとなつたので、どうしても私が実地調査せねばならぬ破目に陥り、しかたなく現地へ出張することゝなつた。

早速白川村役場所在地まで行き、ガイドを備へ翌朝早々に出発したが、三角の二辺を行くよりも道のない一辺を行くことが時間的労力的にも最上と思ひ、旁々血氣も手伝つて道のない三角一辺を選んだわけだが、途中、三十貫もあらうと思ひ熊と出会い、或いは巨木に登つて方角を見定め、或は奇妙な鳥の声に壽命をちよめる等、漸やく午後四時頃部落の紫煙を近くにながめた時は独りパンサイを叫んだものである。

とに角屋食も食はず道なき原始林を歩きつゞけること五里であるので、区長の家についた時は疲労その極に達し、何も睡ることすらいやになつた状態であつた。

唯この村では洋服を着た所謂の且那といふものは、三年か五年に一度しか見たことがないといふので吾々が入村してみると、一体何をすべきかすのが部落民は疑心暗鬼であり、いかにもげんそうな顔つきで吾々を見守るのであつた。

夕飯がすみ、いよいよ本来の仕事に取り掛かうとすると、区長の曰く、折角おいでなすつたので今夜は是非話をしてくれといふ。それがたとえ社会状況の話でも汽車電車の話でも何でもいゝから話を聞かせてくれと哀願するので別に講演に出向いた訳でもないがとに角区長の云い分を聞き、夏の夜のふけるのも知らずにいゝ氣になつて話を聞かせてやつた。そしていよいよ寝に就いたのであるがどうも布団の中には、赤馬(のみ)が数匹おる様に思われ、土産に持つて帰つては大変と、裸になつてみたところ、これはいやはや、数十数百とも思われるものが身体一面に吸血されるのでろくろく寝もやらす夜のふけると共に寒さも手伝つて一睡もせず明方を迎えた。

朝起きて区長と急ぎ折合せの上帰途につくべく玄關で地下足袋を履いておると突然私の前に妙令の美人が立つておるではないか、然も他所行きの風采である。区長の曰く、自分の娘で金沢でバーに勤めておるので金沢まで一語に連れてやつてくれ、と懇願され承諾してしまつた。

昨夜の、のみ、の総攻撃に比較して洵に皮肉な一場面ではある。かくして金沢へ出る特別の用務もないのだがそれをやりとげたあたり何かの因果かもしれない。

あゝ白川郷は何としても今以て思い出の多いところであつた。今はどの様に変つたか知る由もない。

以上をもつて一応白川郷を終結したいと思ふが、人情や風俗の事などまだまだ書き度いことは際限ない。然しそれは又の機会に譲ることにする。

人と店 紙面の都合に依り体裁

環流

神でない以上人には間違ひはあり、商売人ならずとも誰もがより多く儲けたいのは人情である。

然し乍らその間違ひが善意からこないものとしたら社会より指弾を受け事の次才によつては司直の手をわずらわすことさえある。

又儲けることは儲けてもそこに不純があるとしたら、これ又世間から指弾を受け、場合によつては司直の手をわずらわすのは当然の帰結である。

聞くところによると当組合員の中に最近かゝる指弾を受け或は司直の手を煩わしつゝあるやを耳にするが洵に遺憾千万である。特にそれが組合員を代表する理事者の中に該当者があるに聞き今更乍ら驚かざるを得ない。若し巷間に伝へらるゝが如き事実あり、とせば此際理事者を退いてでも事の黒白を表明し、且つ善処すべきではなからうか。

編輯後記

○師走だ！ 静かなるべき先生すら、いそがしく走るといふこの月、先生ならずとも、こちとら商人にとつては氣忙しき次才。

○十月はオリンピック、十一月は景氣回復とみたが、さにあらず引続き十二月も又商い閑散

○こり不況続きでは何とかせぬと干上つてしまふ。いつも言うこと乍ら、兼帯の業務を持つべきである。

○泣いても笑つても、もう幾日も無い。来るべき年に辛多かれと筆を擱く
昭和三十九年十二月五日

この編輯を終つて 高野生